

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201339		
法人名	社会福祉法人 伏古福祉会		
事業所名	グループホーム 藤苑 (あかね)		
所在地	札幌市東区伏古7条3丁目2-34		
自己評価作成日	平成27年2月10日	評価結果市町村受理日	平成27年3月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0170201339-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 2 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

和顔愛語 ～いつも にこにこ ことば やさしく～ 一分、一秒を皆が大切に思いながら、常に笑い声の聴こえる、楽しい雰囲気の中で、入居者の方々が心穏やかに過ごしてもらえる、ここに居ると安心するね、と思ってもらえるようなグループホームでありたいと思っております。 そのために、職員個々が認知症のプロとしての意識、何が出来るのか？何をすべきか？を日々皆で考え、皆で育っていくと共に、地域の中でも気軽に立ち寄れる、相談できるような開かれたグループホームになるためには？を考えていきたい。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

有限会社 ふるさ

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I .理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症状がみられても、穏やかで笑顔のある生活を送ることができることを、地域の方々に実際に感じていただくために、気軽に行事等に参加でき、職員へも話しかけられるような、グループホームを今後も変わらず目指していく。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者の皆さんと町内会の行事等へ参加は出来ないが、地域の幼稚園、小中学校とは年に数回交流をしている。ボランティアさんも継続的に来ていただいている。今後は町内行事にこちらから参加をできればと思う。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	代表が小中学校へ車いすを持参し、介護講習を行っている。また、職業体験にて中学生を受け入れている。また、3ヶ月に一度、認知症家族の茶話会も継続して開催している。（地域包括・予防センターと連携して）		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、地域住民3名、地域包括、入居者ご家族全員が運営推進委員となり、各テーマに添ったグループホームの現状を伝え、併せて講師を招いた勉強会スタイルを2ヶ月に1回開催し、意見交換をしている。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市グループホーム管理者連絡会の役員会に参加しながら、運営等にて疑問等があった際に随時、確認している。東区担当者と男性介護者のつどい（3月開催予定）、災害時の要援護者支援ネットワーク連絡協議会等へ協力関係を築くように行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2階に2名、臥床時のみ2本柵をしている方がいる。離床時間の確保、センサーの設置と見守りの重視等行っているが、間に合わないことが考えられ、ご家族とも話し合い、リスク会議を開き、職員の意識統一、主の気持ちを十分考慮し、行っている。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人管理者中心に外部研修会に参加している。日常何気なくかわされている会話、言葉使いの中にも虐待が隠れている（本人が気づかず）場合もあるので、職員同士でお互いに注意するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修会に管理者参加し、職員会議の中にて職員と意見交換を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にご家族からのお話を十分に傾聴しご自宅への訪問、見学、必要に応じて関係機関との連絡、情報交換等行なっていく。同時に当苑での理念や方針を伝え、理解していただいた上で契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員（2ヶ月に1回開催）にご家族全員がなっており、運営に関する事や現状等をお知らせする機会を設けている。また、行事や日々の面会時等にもご意見をいただき、法人の主任等会議（月一回開催）等に議題とし、話し合いを行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員対象の法人全体会議が年2回、開催され、理事会での決定事項の報告、質問、意見交換等を行っている。また、月1回開催の主任等会議が開催され、現場の声を会議の場へ伝え、検討されている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人を大切な仲間とし、各自の向上心に対し、バックアップ体制はとられており、職員より、『働きやすい』という声は良く聞かれている。他部署間同士で協力体制は常に図られている。（が、あまり給与には反映されていない現状ではある）		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会中心に、3ヶ月に1回の内部研修会を開催。外部研修会へ参加した際には、月一職員会議の場にて、報告会（勉強会）を開催している。研修へは、管理者にて参加職員を決め、本人の意思を確認している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム管理者連絡会（東区（会長）札幌市（副会長）の役員を務め、研修会の企画する中で講師、業者等より、より深い情報交換や日々の業務等での相談もでき、サービスの質向上に反映されている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・計画作成者共に本人から話を聞く機会を多く持ち、本人の状態を見極める事から入り、会話の中から何を望んでいるのかを良く知り情報を共有する事で、安心してもらえるような信頼関係作りを目指している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人から話を聞くのと同時に御家族と話をする機会も多く作り、御家族のご本人に対する思いや御家族が何を一番望んでいるかをできる限り把握するよう努め、御家族と職員が協力して本人を支援していく事を理解して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望の御家族にはまず見学に来て頂き、機会を見て本人にも来て頂くようにしている。本人が見学に来られた際には本人の気持ちを見極め、まだここに入所するには早いと思った方には、通所サービスや訪問サービスを紹介した事もある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で掃除や洗濯物たたみ・食器拭き等を手伝って頂いている。又、職員が悩み事を相談すると慰め相談に乗ってくれる場面もあり、お互い支え合って生活をしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族とは気兼ねなく話し合える関係を築く事を目指しており、色々な場面で職員と御家族が協力しながら支援している。職員ではどうしても納得できないと訴える時には、本人との電話対応や面会等快く引き受けて下さっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お孫さん・曾孫さん・親戚等の来苑も多く、時には苑で一緒に食事をしたり、外食したりもされている。又お墓参りに出掛けたり娘さん・息子さんの家に行かれたりする事も年に数回あり、できるかぎり御家族にも協力して頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介助が必要な方に元気な方が話しかけてくれたり、こぼした食べ物を拾う等簡単なお世話をしてくれたりする事もある。レクや家事手伝い等一緒に行い関わり合いを持つ機会を設ける事で会話も増え、お互い支え合う関係を築いていけるよう努めている。又一人が孤立した時には、必ず職員が寄り添うようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近所に住んでいる退所された入居者の御家族が毎年苑庭の花壇作りを行って下さったり、ボランティアとして来て下さったりされており、感謝の気持ちを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の対応について毎月のモニタリングで話し合い、一人ひとりの希望や意向を考え、それにそって支援している。又その支援が職員の思い込みや一方的なものになっていないかも都度話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の本人・御家族からの情報を活用し、入所後も不明な点は御家族に話を聞き、生活の背景を把握する事に努めている。又日常の会話の中で知り得た情報は職員皆で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌には日常の様子を書き、毎月のケース記録には担当が1か月の心身の状態や変化をまとめ記入している。又モニタリングにそったケアを全職員が行ない常に総合的に見るように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と担当職員が中心になり毎月モニタリングを行い、実践すべきケアの継続や変更を話し合っている。又カンファレンス時はできるだけ御家族にも参加して頂き、心身状態や実践状況を話し合い、その結果を日頃の支援に活かし介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランと連動した日誌を作り、変化への気づきは日誌記入する事で職員間で情報を共有している。又それを毎月のモニタリングで話し合い、統一したケアを行っている。特に大きな変化がある時はカンファレンスを開き新たな計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々本人の状況を把握する為に日々様子観察を行い、会話の中からも本人の思いや希望を把握し、都度本人のニーズに迅速かつ柔軟に対応できるよう努めている。又家族の状況把握にも努め、その中でニーズがあれば対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同法人のボランティアの会「ひよこの会」の方々や近隣の方々が行事の付き添いや毎日の料理の手伝い、入居者との話し相手等をしてきている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は8人の入居者が訪問診療を受けており、提携している医療機関の医師や看護師には家族や本人の意向を伝えており、医師と相談して決定した治療方針は家族に伝え了承を得ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度看護師が勤務し、体調の確認を行い個々の看護記録を作成している。職員は入居者の1週間の変化を伝え、様々な医療面での相談を行い適切な指示を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ずグループホームでの日常生活状況表を病院に提出し、本人の状態を把握してもらっている。その他にも電話や面会等で病院との情報交換を行い、入院中の本人の状態を把握するよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化している方の御家族とは終末期について話し合っていて、モニタリングでも確認し変化に備えている。又、急変時は診療時間外や休診日でもすぐに主治医の携帯電話に連絡ができるようになっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの研修や救急時の対応の勉強会に参加してもらい、全職員が対応できるよう備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した火災発生時の避難訓練は今年度2回行っている。来年度の避難訓練では近隣の方々にも参加を協力して頂く予定。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1日の生活のペースは入居者の皆さんに合わせ、要望や意見を聞き、その思いに添えるよう個別に対応している。人生の先輩として敬意を払い、尊厳を傷つけない対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を話される時には傾聴し把握するよう努めている。又言葉で表現するのが困難な方は、表情や行動等からニーズを読み取るよう努めている。又、自己決定を促すような声掛けを意識して行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活のペースは入居者の皆さんに合わせ、活動や行事への参加も個人の意思を尊重している。要望や意見を聞き、その思いに添えるよう個別に対応している。入浴の希望や昼寝の希望等があればその都度対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回美容師が来苑し、カットの他希望があればパーマやカラーも行っている。お化粧する入居者はいないが、洗顔後鏡を見てブラシで髪をとかしたり、化粧水やクリームをつけたり等してもらっている。又眉描きの希望があればお手伝いしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は調理パート2名が食事の準備・後片付けを行っており、一人ひとりの好みや力に合わせて食事提供している。できる時には利用者に食事作りやおやつ作りのお手伝いをお願いしている。食器洗い・食器拭きはほぼ毎日お手伝いして下さっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は全員チェックし、不足時は栄養補助食品で補ったり、好きな物を食べて頂いたりしている。又一人ひとりの状態や力に合わせ、主食や副食の形態を変えている。入所前の食習慣の中で入所後も希望する事があれば継続するよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態を把握し、歯磨き・うがいのできる方は見守り・介助にて行っている。できない方には歯磨きティッシュ使用し口腔清拭行っている。御家族の希望により歯間ブラシを実施している方もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック・排便チェックにより排泄パターンは把握できており、介助が必要な方はそれぞれの排泄時間を把握した上で言動等も読み取りながら、声掛けと誘導を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事はなるべく野菜と多く摂るよう心掛け、水分摂取の管理もしている。又便秘気味の方にはヨーグルト・青汁・ヤクルト等今までの食習慣に合わせて提供し、便の緩い方には寒天ゼリーを作り食べてもらう事で改善を図っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全員が均等に入浴できるようになっているが、希望があればいつでも入浴できる態勢にしている。入浴拒否する入居者には無理強いはしないが、声掛けの工夫等行いながらできるだけ入って頂けるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の好きなように時間を過ごしてもらっているが、疲れた表情や傾眠見られた時はソファで横になってもったり、入室し臥床促したりして体調に合わせた生活をしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の追加や変更があった時には日誌報告・モニタリングの記入等で情報を共有している。服薬による症状の変化はすぐに主治医に報告し指示を仰いでいる。錠剤のまま服用できない方の薬は粉碎しオリゴ糖を使用する等で対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好きな事やしたい事を日々引き出す努力をしているが、分からない事があれば御家族にお聞きし、生活歴や趣味・嗜好等を把握するよう努めている。家事手伝いやレク等もそれぞれの方の得意な事や好みを把握して提供している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添って出掛けられるように努力している。天候が良い日は苑庭に出たり、職員と一緒に買い物や外食に出掛けたり、御家族の協力でお墓参りやご自宅まで行ったりしている。又2ユニット合同でお花見や秋の遠足等も実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は自分のお小遣いを自分で管理する事を希望され、かつ管理する能力のある方はいない為、預り金として事業所で管理しており、本人がほしい物や必要な物を希望される時は、お小遣いの中から職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人希望時に職員が番号を押して掛けている。電話番号を覚えている利用者には、御自分で番号を押してもらっている。現在手紙のやりとりをしている利用者はいないが、今後そういった方には支援していきたい。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓からは明るい光がいつでも入り、外を眺めては四季を感じてもらっている。又季節の行事には飾り物をしたり、旬の食べ物を召し上がって頂く事で季節を感じて頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者一人ひとりにとって居心地の良い場所があるように配慮している。リビングでソファー席を2つに分けて少し離し、それぞれにテレビも1台ずつ設置する事で、独りでいたい時や利用者同士で過ごしたい時等、その日の気分や状態に合わせて座って頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、今まで使っていたものはそのまま持って来てもらう等居室に関しては本人の思い通りにして頂いている。又夜間・日中共に訪室し気温や湿度等の環境整備にも努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて安全な移動ができるよう考慮している。自力歩行の入居者が夜間転倒する事なく安全に移動できるように家具の配置に気を付け、トイレや洗面台の灯りを点けたままにし見守り行っている。		